

琉球大学学術リポジトリ

多文化クラスにおける「ニュース発表」活動の試み：
URGCC の学習教育目標の達成を目指して

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学大学グローバル教育支援機構 公開日: 2018-07-11 キーワード (Ja): 自律学習, 国際性, 異文化コミュニケーション, ディスカッション キーワード (En): 作成者: 葦原, 恭子, Ashihara, Kyoko メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/40971

多文化クラスにおける「ニュース発表」活動の試み —URGCC の学習教育目標の達成を目指して—

国際教育センター 葦原 恭子

要 旨

琉球大学では、独自に導入した URGCC というカリキュラムの学習教育目標の達成を目指し、外国人留学生が対象の生のニュース番組を題材とした聴解や口頭発表などの教室活動を実施する授業が提供されている。本稿は、このような授業の教室活動の一環として実施された「ニュース発表」を考察対象とする。まず、先行研究と URGCC から見た「ニュース発表」について述べ、次いで、活動に参加した学習者に対するアンケート調査の結果を分析した。その結果、本活動は、特に「自律性」「国際性」「コミュニケーション・スキル」を高める可能性があることが明らかとなった。

【キーワード】 自律学習, 国際性, 異文化コミュニケーション, ディスカッション

1. はじめに

琉球大学は、沖縄をはじめ県外の学生、アジアを中心とした外国より留学生が集い、多様な人材が集まる場所となっている。2016年3月現在、世界の33地域・国の79大学と交流協定を結んでおり、2016年5月現在、280名の外国人留学生が在籍している。そのうち72名は交換留学生であり、世界45ヶ国からの留学生が共生している。

琉球大学では、2012年度から URGCC (University of the Ryukyus Global Citizen Curriculum) (以下、URGCC とする) を導入している。これは、世界へ拓かれ、沖縄と世界の「津梁 (架け橋)」となる人材を輩出できるよう教育の質を保証するためのカリキュラムであるとされている。URGCC では、琉球大学の学生が達成すべき学習教育目標として、「自律性」「社会性」、「地域・国際性」、「コミュニケーション・スキル」、「情報リテラシー」、「問題解決力」、「専門性」の7つを定めている¹。

本稿は、琉球大学で学ぶ外国人留学生対象の日本語教育の現場において、これらの学習教育目標達成を目指して試みた授業の実践とその効果について考察する。

2. URGCC における学習教育目標

URGCC では、「自律性」、「社会性」、「地域・国際性」、「コミュニケーション・スキル」、「情報リテラシー」、「問題解決力」、「専門性」の7つの学習教育目標について、

表1のように定義しており、これらは琉球大学における共通理念として掲げられている。これは、学生がどの学部にも所属しているかにかかわらず関わってくるものとされているため、外国人留学生も対象となっている。

表1 7つのURGCC学習教育目標

自律性	自分自身が掲げる目標の達成に向けて、自律的に学習し行動することができる。
社会性	市民として社会の規範やルールを理解し、倫理性を身につけ、多様な人々と協調・協働して行動できる。
地域・国際性	地域の歴史と自然に学び、世界の平和及び人類と自然の共生に貢献することができる。
コミュニケーション・スキル	言語(日本語と外国語)とシンボルを用いてコミュニケーションを行い、自分の考えや意思を明確に表現することができる。
情報リテラシー	幅広い分野の情報や知識を多様なチャンネルから収集し、適切に理解した上で取捨選択し、活用することができる。
問題解決力	批判的・論理的に思考するとともに、これまでに獲得した知識や経験等を総合して問題を解決することができる。
専門性	専攻する学問分野における思考法、スキル、知識等を体系的に身につけ、活用することができる。

3. 教室活動の概要

琉球大学では、URGCCの学習教育目標の達成を目指し、外国人留学生対象の生のニュース番組を題材とした聴解や口頭発表などの教室活動を実施する授業が提供されている。本稿は、このような授業の教室活動の一環として実施された「ニュース発表」を考察対象とする。考察対象となる「ニュース発表」の概要は表2の通りである。

次節では、URGCCと先行研究から見た「ニュース発表」活動について考察する。

4. URGCCと先行研究から見た「ニュース発表」

4-1 自律性

「自律学習」とは、学習者自身が自己の学習に主体的に関わり学習を孤立化せず、教授者や教材や教育機関などといったリソースを利用して行う学習をいう⁴。

梅田(2005)は上記の定義を踏まえ、「学習者の日本語学習の最終目的は、多くの場合、日本語能力を高めることではなく、それを手段として有効に使えるようになることである。学習者がこれらの目的を実現するためには、教室での勉強に留まることなく、様々なリソースを有効に使って自律的に学習する能力を身につけることが必要である」としている。

高橋(2007)は「ウェブサイトには日本語学習に利用できそうなリソースがふんだんにある。このうちテレビ局のニュースサイトには、動画のほかに本文スクリプトもついており、学習者が自律的な学習をするのによい環境が整っている」と指摘している。そして、「学習者自らがニュースサイトにアクセスし、情報収集ができるようになるこ

と」を目標として、次の3要素を授業に取り入れている。1) インターネットを利用して最新のニュースを聞く、2) ニュースが聞けるように様々なトピックに関連する語彙を増やす、3) ニュースを通して日本の文化や社会への理解を深める。その結果、当該授業が学習者のリソースを広げ、自律学習をすすめていくきっかけになったとしている。

表2 「ニュース発表」の概要

活動名		「最近私が気になるニュース」を発表しよう
開講時期		2010年10月～2017年2月
授業時間		前学期・後学期 各全15回（各回90分）
学習者	身分	交換留学生、正規学部生、私費留学生、 県費留学生、国費留学生、大学院生
	日本語レベル	JF日本語教育スタンダードB1～B2レベル JF日本語教育スタンダードB2～C1レベル
	国籍	アメリカ、イギリス、インドネシア、オーストラリア、 カザフスタン、韓国、スウェーデン、スペイン、タイ、台湾、中国、 ドイツ、トルコ、ブラジル、フランス、ベトナム、マレーシア
	受講者数	のべ262名（各学期各クラス10名～25名）
活動概要	発表準備	1) 学習者がインターネットから興味があるニュースを選ぶ。 2) 担当教員に選んだニュースについて報告し、相談する。 3) ニュースの概要、背景知識となるキーワード、ニュースの内容を「最近私が気になるニュース」シート ² に記入する。 4) シートを担当教員にメールで送付し、日本語表現等のチェックを受ける。 5) 担当教員と面談し、問題提起の内容について相談する。 6) 学習者がパワーポイント資料を作成し、担当教員に送付し、日本語表現等のチェックを受ける。 7) 担当教員がシートとパワーポイント資料を統合し、発表時に配布する資料を作成する。 8) 担当教員が発表の枠組である「発表のしかた」 ³ を配布する。 9) 発表担当の学生は、自宅学習で発表の練習を行う。
	発表当日	1) 発表担当者が発表資料をクラスメートに配布する。 2) 発表担当者がパワーポイントを使用し、ニュースを見せる。 3) 発表担当者がニュースの内容について確認する。 4) 発表担当者が関連する背景知識を必要に応じて紹介する。 5) 発表担当者が問題提起として3点質問を挙げる。 6) 発表担当者がファシリテーターとなり、問題提起された質問についてクラスメートから意見を引き出し、ディスカッションをリードする。 7) 担当教員はクラスメート側の席に座り、必要に応じて質問に答えたり、求められれば意見を述べたりする。
	発表後	担当教員は必要に応じて、当該ニュースに関連した報道番組や新聞・雑誌の記事などを使った授業をし、背景知識を拡充する。

中込（2000）は、聴解クラスにおいて「ニュースの紹介」という教室活動を実施しており、学生の専門知識や関心の違いによって、聞き取りの容易な分野とそうでない分野が異なってくると指摘している。この個人差に対応するには、学生自身が自分にとって

関心のあるニュースの中から自分の聞き取れそうな適切なリソースを選んでくることが一つの対処方法として考えられるという。そこで、市販のニュースの聞き取り用テキストを主教材として使う一方で、学生が録画してきた生のニュースを学生自身がクラスで紹介するという活動を授業の中に組み込んでいる。その上で、クラスで紹介するニュースを選ぶことは、そのための視聴がきっかけとなり、学生が自分なりのやり方で今後もニュースを聞き、自律的な学習を継続していく可能性があるとして述べている。

本稿の考察対象である「ニュース発表」では、発表準備の際に、学習者に「ニュースサイト一覧」というインターネット上でニュースが視聴できるサイトの情報が配布される。発表担当の学習者は、発表日の1～2週間前からこれらのサイトを検索し、興味があるニュースを選び出す。選んだニュースについては、その情報を授業担当教員に知らせ、発表に必要な背景知識や問題提起の内容について相談し、発表用資料を作成する。

「ニュース発表」活動に参加した学習者は、この一連の経験によって、発表終了後も自律的にニュース視聴を続けるようになった。このことから、本活動はURGCCで掲げられている「自律性」の育成に資することができたと思われる。

4-2 情報リテラシー

「ニュース発表」では、前述したように、ニュース発表で取り上げるニュースの選択は発表者となる学習者に委ねられている。これは、学習者が自律的にリソースと接し、選び取る作業を通して自律性を養い、また、授業終了後も自律的な学習を継続することを目的としているためである。さらに、この経験は、URGCCにおいて「幅広い分野の情報や知識を多様なチャンネルから収集し、適切に理解した上で取捨選択し、活用することができる」と定義されている「情報リテラシー」という学習目標達成の一助にもなるとと思われる。

4-3 コミュニケーション・スキル

徳井(1997)は、留学生と日本人学生の相互交流型討論「ディベカッション」を試み、クラスで行う討論そのものが異文化コミュニケーションの場として重要な役割を果たしていると述べている。さらに、徳井(1999)では、コミュニケーションを「参加者が相互に影響を及ぼし合いながら意味を共有しあっていくプロセス」と捉えている。そして、異なった背景文化を持つ者が協同作業、討論等を通して多様な意見・価値観に触れることにより、異文化接触によって生ずる様々な問題を解決していく力を身につけ、内省を通して自分自身の中にある自文化主義的な考えから脱却することができるとしている。さらに、大学の多文化クラス(留学生、日本人学生、外国人子弟等異なる背景を持った学生によって構成されているクラス)の学生たちによって生み出された幾つかの創造的な討論携帯を紹介し、創造性という観点から多文化集団のポジティブな側面につ

いて考察している。その結果、多文化クラスは異なった語学力、文化背景を持つ学習者の集団であるため、クラス内でのコミュニケーションは異文化コミュニケーションであると指摘している。さらに、ハウエル・久米（1992）の「対話者同士がお互いの持っている知識、経験、知恵、洞察力を自由な雰囲気の中で話し合い、有効に組み合わせられたとき、想像力が発揮される」という指摘を援用し、多文化クラスの教師は、このような雰囲気を作り出すことが必要であるとしている。

澁谷（2010）は、日本事情教育において、問題提起型パネル・ディスカッションという取り組みを行っている。この問題提起型パネル・ディスカッションの目標は、学習者自身が日本の問題点に着目し、現代日本の文化や社会状況について考察を深め、問題を多角的に分析する力を養うことであるという。そして、異なる視点を持つ他者との対話を通して、自分なりの新たな意味を創造することができ、それは他者との違いを認識したり、あるいはぶつかったりしながら新しい意味を構築していくプロセスでもあり、このような教育的示唆を実現するために、他者と向き合う方法としてパネル・ディスカッション形式の討論を活用したとしている。

さらに、澁谷（2012）は、日本事情教育において「発題型ラウンドテーブル・ディスカッション」という取り組みをしている。そして、このディスカッションは、発表者が問題提起することで、自分にとって「日本」とは何かを考えさせることにつながるという。また、日本の身近なテーマでディスカッションすることは日本人学生にとっては自分が学んでいる外国語の国や人々をより理解することにつながり、留学生にとっては日本を理解し、見つめ直すきっかけになると指摘している。

先行研究の多くは日本人学生と外国人留学生の混合クラスを「多文化クラス」と称していた。本稿の考察対象である「ニュース発表」のクラスは、外国人留学生対象クラスであり、聴講生としての日本人学生の参加があったのは1学期のみであった。しかし、外国人留学生の出身国は、のべ16カ国に及んでおり、常に「多文化」状態であった。そして、発表者となる学習者自身は、ニュースを通して日本に存在する問題点に着目し、現代日本の文化や社会状況について考察を深めることが可能であった。また、「問題提起」の質問を考えることによって、問題を多角的に分析する力を養うことにもつながったと思われる。

4-4 国際性

「ニュース発表」の発表者は、選択したニュースの背景知識を紹介するために、日本における当該ニュースに関する一般的な見解、出身国でのニュースに対する評価、そして、世界的な視野から見たニュースの意味について考察し、資料を作成した。このプロセスは、学習者の国際性を養うことにつながると思われる。また、ニュースの分析後、多国籍のクラスメートと自身が発見した問題点についてディスカッションすることによって、異なる視点を持つ他者との対話を経験することになった。これは、先行研究が指摘しているように、学習者なりの新たな意味を創造することになり、それは他者との違いを認識したり、あるいはぶつかったりしながら新しい意味を構築していくプロセスになっていたと言えよう。

4-5 問題解決力

URGCC では、「問題解決力」を「批判的・論理的に思考するとともに、これまでに獲得した知識や経験等を総合して問題を解決することかができる」能力であると定義している。「ニュース発表」における「問題提起」には、ニュースにまつわる社会的な問題についての解決法を問うものも多々あり、学習者の「問題解決力」向上につながる第一歩となっていたと思われる。

4-6 社会性

異文化トレーニングの実践現場では進行役や講師は「ファシリテーター」と呼ばれる。

ARC Academy (2004) は、ファシリテーターについて、「ファシリテーターは自分の考えを述べるのではなく、参加者から意見を引き出し、参加者自らが考えていくための進行役である。そのため、参加者から出た意見を簡単に否定したり、自分の意見を押し付けたりしてはならない。参加者が自分たちで考えていくための交通整理役として、出てきた意見をまとめたり、整理したりしていくことが必要である。話し合いに適した事例を選んで、方向付けを行っていくのもファシリテーターの仕事である」としている。

橋本 (2013) は「『ファシリテーター』は中立の立場でチームワークと参加者の能力を引き出し、成果が最大になるように支援する。このような会議や組織を活性化させるファシリテーションは、日本語教育にも十分応用することができる。ファシリテーションは情報の一方通行の教授法ではなく、自ら学ぶ意欲を持たせる学習者中心の教育方法につながる」としている。

「ニュース発表」の活動においては、ニュースの発表者である学習者は、まさに「ファシリテーター」としての役割を担っている。この経験は、URGCC がその定義として挙げている「多様な人々と協調・協働して行動できる」という「社会性」の養成につながると思われる。

4-7 専門性

金庭・川村（1999）は、全ニュースの二割程度が「リード文＋背景＋詳細＋展望・付加」の構造であり、いずれかの段落が省略されているものも含めると 97%のニュースがこの構造で放送されると報告しており、この談話構造を聴解の指導に利用するとよいと示唆している。

藤田（2004）は、新聞記事やテレビニュースの文体について考察している。そして、ニュースは、最低限の条件として 5W1H（いつ、どこで、誰が、何を、なぜ、どのように）という構成要素を備えていなければならないとしており、明確で簡潔なニュース・テキストを作成するために押さえておくべき要素であるとしている。

田中・斎藤（1993）は学習の対象として、「人的リソース」「物的リソース」「社会的リソース」を挙げている。金庭（2004）は、ニュースを継続的に聞くために、これらのリソースをうまく活用し、学習者に自然な形で事前情報を与え、ニュースを理解させることが可能であるとしている。

さらに、金庭（2011）では、ニュース聴解の指導のために必要な「認知能力」についても明らかにし、「認知能力」が「事前情報」から受ける影響と「予測能力」との関係について考察している。そして、「事前情報」を利用させるために学習者に継続的な学習リソースの利用を促した結果、言語知識を多く持たない学習者の聴解に変化が見られたとしている。「予測能力」と語彙力や理解との関係では、語彙力も予測能力も理解に影響を与えているが、予測能力より語彙力のほうが影響が大きく、予測するタイプの学習者は、十分な語彙力を持っていることがわかったとしている。

聴解の授業では、特にスキーマの活性化に注目し、「前作業・本作業・後作業」という流れで授業が行われることがある。スキーマの活性化については、一般的に文脈や内容に関する背景知識を与えたほうが聞き取りの向上につながることもあり、言語知識に関する情報を事前に与えた方がよいとされている。

「ニュース発表」では、発表者が「最近私が気になるニュース」シートを作成することになっている。このシートを作成するにあたって、発表者は、ニュースの概要として次の情報を記載する。1) メディア（新聞、テレビ、インターネット）、2) 分野（経済、政治、教育、社会、文化、科学、医療、歴史、事件/事故、その他）、3) 報道された日、4) トピック（ニュースの見出し）5) 背景知識（キーワード）である。

また、「ニュースの内容」として当該ニュースを 5W1H（いつ、どこで、誰が／何が、何を、なぜ、どのように）で表にまとめることになっている。

ニュースの概要を記載することによって発表者はニュースの基本情報を確認し、要約することになる。また、クラスメートは、事前情報として概要を知ることができる。

また、聴解をするにあたってスキーマを発動させることにもつながると思われる。

「背景知識」となる「キーワード」については、発表者自身のための進出語彙の確認のみならず、クラスメートの日本語能力に配慮して語彙を選ぶという作業になっている。また、パワーポイント資料にはキーワード以外に必要な背景知識となる情報やデータを発表者の判断で適宜入れる。この一連のプロセスは、先行研究が指摘しているニュースの構造である「リード文+背景+詳細+展望・付加」と一致する。

以上のように、発表者は、発表用資料の作成と発表を通して、また、クラスメートは、発表を聞き、ディスカッションに参加することで、ニュースの構造を学ぶことができるのである。そして、この経験は学習者が自律的かつ継続的にニュースを視聴することにつながることを期待される。

次節からは「ニュース発表」の活動に参加した学習者に対するアンケート調査の結果を通して、この活動の効果について考察する。

5. アンケート調査

5-1 アンケートの概要

本稿では「ニュース発表」の活動に参加したことがある学習者を対象としてアンケート調査を実施した。アンケートの概要は表3の通りである。アンケートはウェブ上に作成し、Facebook と E-メールを通じて世界各国へ在住している協力者へ配信した。約 200 名に回答を依頼したところ、1 ヶ月で 30 名から回答が寄せられた。この回答者数は、アンケート結果を一般化するためには十分とは言えないが、国籍や琉球大学での留学期間にはばらつきが見られるため、ある年のあるクラスに限った回答というよりは、「ニュース発表」の活動を 2010 年に開始してから 2017 年現在にわたる全般的な評価の一端を垣間見ることが可能であると思われる。

表3 「最近私が気になるニュース」発表についてのアンケート概要

回答期間	2017年2月～3月	
回答者	人数	30名（男性14名, 女性16名）
	国籍	ドイツ（6）中国（6）韓国（6）台湾（4）タイ（2）アメリカ（2）フランス、スペイン、スウェーデン、カナダ、カザフスタン（各1）
	留学期間	2010～2011（1）2012～2013（4）2013～2014（4）2014～2015（5）2015～2016（8）2016～2017（8）
	日本語レベル	JLPTN1（13） JLPTN2（11） JLPTN3(2) 記載なし（4）
発表したニュースの分野	社会（9） 政治（8） 経済（6） 事件・事故（2） 歴史（2） 言語（1） 文化（1）	
「ニュース発表について」	問1～6（発表準備に関する質問） 問7～8（発表に関する質問） 問9～10（ディスカッションに関する質問） 問11～18（活動による効果に関する質問） 問19～20（自由記述）	

5-2 アンケート結果

5-2-1 発表準備

発表準備に関する質問は 6 問あり，その内容は 1) ～6) の通りである。回答者は，それぞれの問について「5 そう思う」「4 ややそう思う」「3 どちらでもない」「2 あまりそう思わない」「1 そう思わない」で回答した。

- 1) ニュース発表のためのニュースを選ぶのは難しかった。
- 2) ニュース発表のためにニュースを選ぶのは興味深かった。
- 3) ニュース発表のためにパワーポイントを作るのは難しかった。
- 4) ニュース発表のために発表用シートを作るのは難しかった。
- 5) ニュース発表のために時間をかけて発表の練習をした。
- 6) ニュース発表のときの問題提起の質問を考えるのは難しかった。

質問 1) と 2) に対する回答の内訳は図 1 と図 2 の通りである。

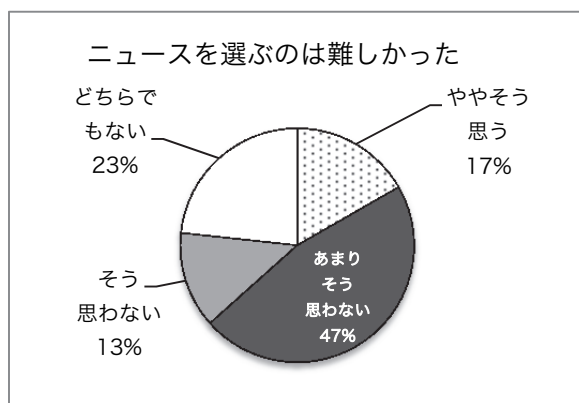


図 1 ニュースを選ぶのは難しかった

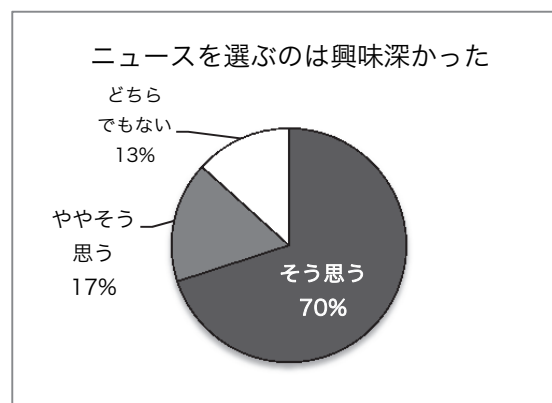


図 2 ニュースを選ぶのは興味深かった

図 1 を見ると，発表のためのニュースを選ぶことは難しいかという問いに対して「そう思う」という回答は 0%であった。一方，「あまりそう思わない」「そう思わない」という回答は 60%を占めていた。回答者の中には B1 レベルの者もいたことから「ややそう思う」が 17%となったと思われる。

質問 3) と 4) に対する回答の内訳は図 3 と図 4 の通りである。

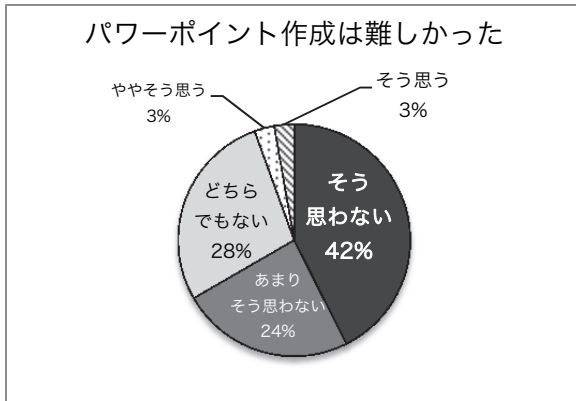


図 3 パワーポイント作成は難しかった

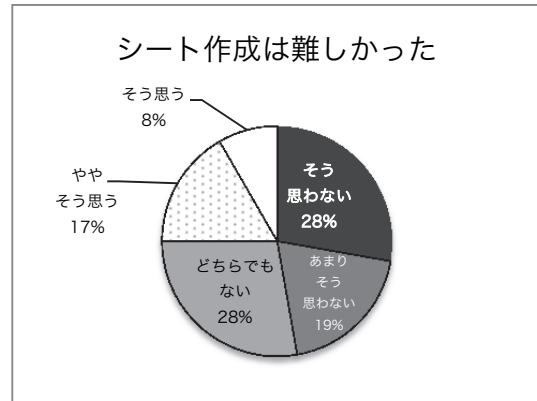


図 4 シート作成は難しかった

発表準備のプロセスの中で資料となるパワーポイントとシートの作成についての印象を問うたところ、パワーポイント作成は難しいと思わないという回答が 66%を占めた一方、シートの作成については難しいと思わないという回答は 47%に留まった。学習者の中にはパワーポイント作成の技術などをコンピュータリテラシー等の授業で学んだという者も少なくないことからこのような結果になったと思われる。

質問 5) と 6) に対する回答の内訳は図 5 と図 6 の通りである。

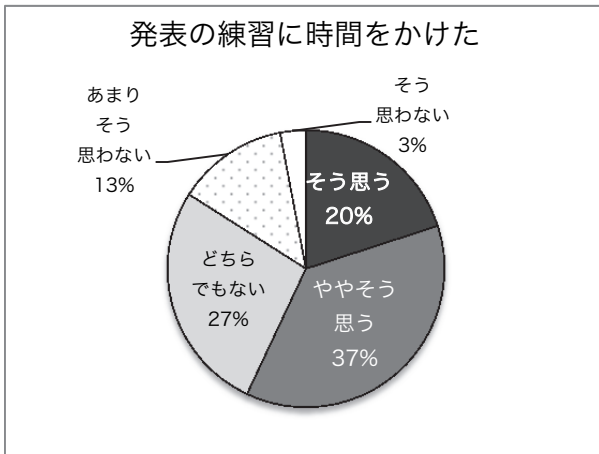


図 5 発表の練習に時間をかけた

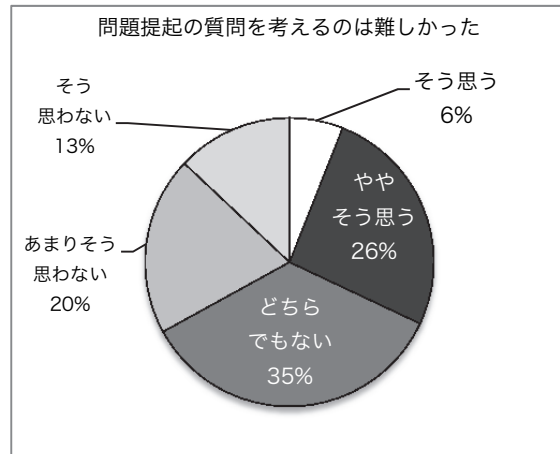


図 6 問題提起の質問を考えるのは難しかった

発表の練習に時間をかけたかという問いについては、57%が「そう思う」「ややそう 思う」と回答し、半数以上が個々の学生なりに時間をかけて準備をしていたことがわかった。また、問題提起の質問を考えることについて、難しかったという回答は 32%に留まっており、「どちらでもない」という回答が最も多く、35%であった。

5-2-2 発表

発表に関する質問は2問あり、その内容は7)～8)の通りである。回答者は、それぞれの問について「5 そう思う」「4 ややそう思う」「3 どちらでもない」「2 あまりそう思わない」「1 そう思わない」で回答した。

- 7) ニュースの発表は思ったよりよくできた。
- 8) クラスメートの発表を聞くのは興味深かった。

質問7)と8)に対する回答の内訳は図7と図8の通りである。

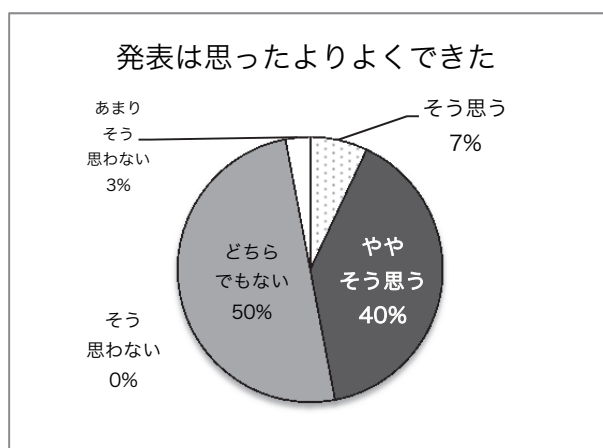


図7 発表は思ったよりよくできた

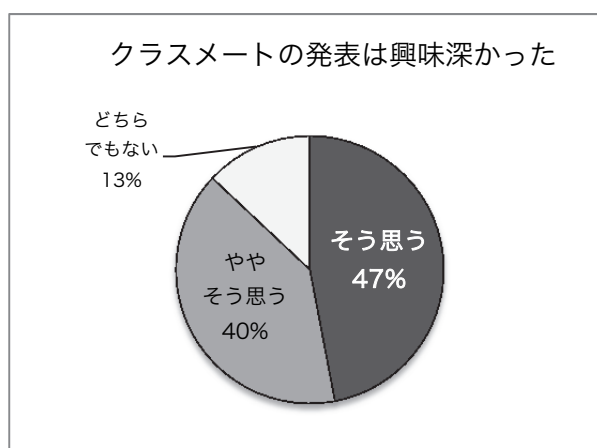


図8 クラスメートの発表を聞くのは興味深かった

「発表は思ったよりよくできた」と思うかという問いに対して「そう思わない」という回答は0%であった。「どちらでもない」が半数を占め、発表が想定通りに進んだと自己評価した者が50%いることがわかった。また、47%は自己評価が比較的高く、ニュース発表によってある程度の満足感を得た学習者がいたことがわかった。

また、クラスメートの発表を聞いて興味深かったという回答は87%を占め、比較的高い割合を示した。「どちらでもない」が13%見られたが、個々の学習者にとっての対象が異なることがその理由であると思われる。

5-2-3 ディスカッション

ディスカッションに関する質問は2問あり、その内容は9)～10)の通りである。回答者は、それぞれの問について「5 そう思う」「4 ややそう思う」「3 どちらでもない」「2 あまりそう思わない」「1 そう思わない」で回答した。

- 9) 問題提起の時間にクラスメートの意見を聞くのは興味深かった。
- 10) 問題提起の時間に自分の意見をクラスメートに言うのは興味深かった。

質問9)と10)に対する回答の内訳は図9と図10の通りである。

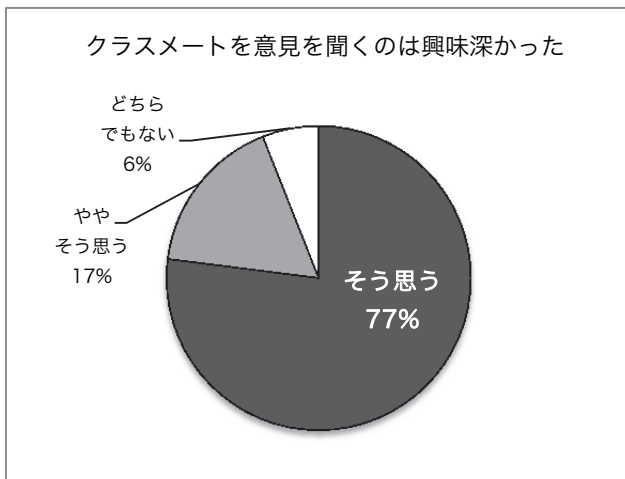


図9 クラスメートの意見を聞くのは興味深かった

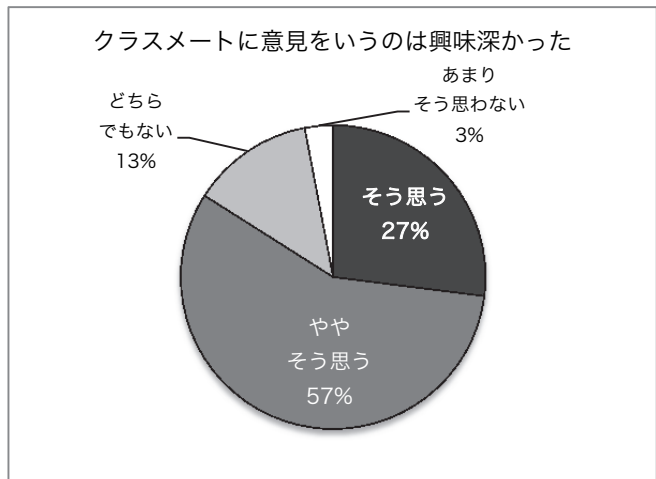


図10 クラスメートに意見を言うのは興味深かった

問題提起の時間にはディスカッションが行われるが、発表者である学習者は、発表者個人の意見も表明しつつ、クラスメートから意見を引き出すというプロセスがあった。発表者によっては、自分の意見をまず述べてから、クラスメートの意見を求めるというパターンとクラスメートの意見をひとつおき聞いてから、まとめの段階で自分の意見を言うというパターンが見られた。どちらのパターンを選ぶかは発表者に委ねられていた。

図9と図10を比較してみると、自分の意見をクラスメートに言うことは興味深かったとした回答が84%で、クラスメートの意見を聞くことは興味深かったという回答はそれを上回り94%に上った。これは、問8でクラスメートの発表を聞いて興味深かったという87%をも上回っており、学習者の問題提起の時間のディスカッションに対する満足度が高かったことを示している。

5-2-4 活動による効果

活動による効果に関する質問は8問あり、その内容は11)～18)の通りである。回答者は、それぞれの問について「5 そう思う」「4 ややそう思う」「3 どちらでもない」「2 あまりそう思わない」「1 そう思わない」で回答した。

- 11) ニュース発表のクラスに参加して、自分の国際性が高まった。
- 12) ニュース発表のクラスに参加して、自分のコミュニケーション能力が高まった。
- 13) ニュース発表のクラスに参加して、自分の社会性が高まった。
- 14) ニュース発表のクラスに参加して、自分のプレゼンテーション能力が高まった。
- 15) ニュース発表のクラスに参加して、自分の聴解能力が高まった。
- 16) ニュース発表のクラスに参加して、自分の会話能力が高まった。
- 17) ニュース発表のクラスに参加して、自分の語彙能力が高まった。
- 18) ニュース発表のクラスに参加して、自分の問題解決力が高まった。

質問 11) から 18) に対する回答の内訳は図 11 の通りである。

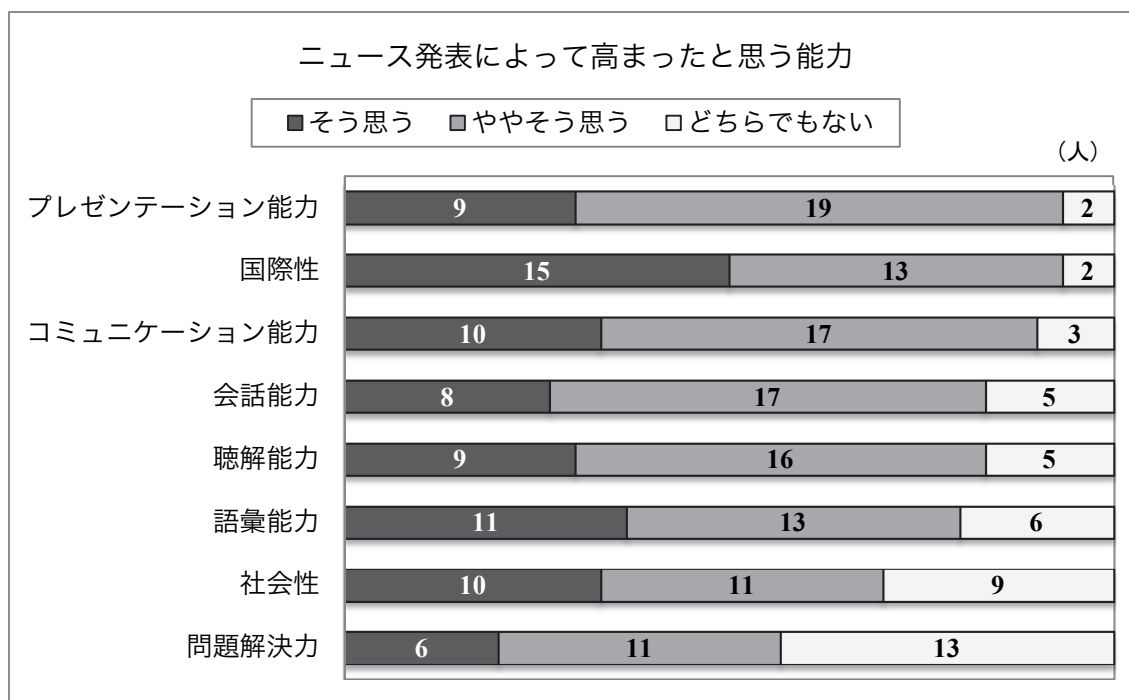


図 11 ニュース発表によって高まったと思う能力

「ニュース発表によって高まったと思う能力」について聞いたところ、「そう思う」と「ややそう思う」の合計が最も多かった項目は「プレゼンテーション能力」と「国際性」であった。次に「コミュニケーション能力」が僅差で続き、「会話能力」と「語彙能力」は同率であった。次いで「語彙能力」「社会性」で、最も評価が低かった項目は「問題解決力」であった。しかし、すべての項目で「あまりそう思わない」と「そう思わない」という回答は見られなかった。このことから学習者は程度の差はあれ、ニュース発表という活動によって自らの能力が高まったことを意識化していることが明らかとなった。また、「プレゼンテーション能力」と「国際性」が同率であったことから、この活動は、学習者によって「専門性」を高めつつ「国際性」を高めると評価されていることがわかった。

表4 自由記述による回答

19) ニュース発表のクラスに参加して、よかったと思うこと	
発表準備	<ul style="list-style-type: none"> ・自分でそれぞれ興味のあるニュースを選べたこと。 ・色々なニュースサイトがあることを知ったこと。 ・興味があるニュースについての単語を覚えること。 ・面白いテーマを皆へシェアすること。 ・市販のテキストではなく、本物のテキスト (Authentic text) を使ったこと。 ・多くのニュースやデータを調べるうちに多くの知識を勉強することができたこと。
発表	<ul style="list-style-type: none"> ・聴解力がついたこと。 ・楽しかったこと。 ・新しい知識を得ること。 ・日本語のニュースがわかるようになったこと。 ・ニュースに対する意見が変わった。普段母国では毎日政治について消極的なニュースが流れるのでニュースをあまり聞きたくなくなる人が多い。
ディスカッション	<ul style="list-style-type: none"> ・問題提起の時、皆の意見を聞いて視野が広がったこと。 ・同じニュースに対して色々な国から来たクラスメートが違う観点を持っていること。 ・皆が自分の国の事情を説明して大変勉強になったこと。 ・自分と違う不思議な考え方が多くてよかった。 ・自由にディスカッションすることができるのが好きだった。 ・ものの見方は色々あると考えたこと。 ・皆がそれぞれ意見を言えること。 ・議論をすること。 ・色々な意見を聞くこと (6名が同コメント) ・問題提起をして意見を聞いたこと。 ・コミュニケーション能力が高まったこと。 ・国際性が高まったこと。 ・クラスメートの色々な意見を聞いて、考え方が変わったこと。
20) ニュース発表のクラスを良くするための改善点や提案	
発表準備	<ul style="list-style-type: none"> ・できれば単語リストをもっと早くもらうこと。(2名が同コメント) ・日々の生活で関心があるニュースを常に聞くことと考えることが大事。 ・発表するニュースの内容を詳しく調べなければならない。 ・発表するニュースに出る高度な語彙を事前にメールなどで伝え、学生に一通り目を通してもらったほうがいいのかもしい。 ・日本文化に関するニュースをもっと取り上げてほしい。
発表	<ul style="list-style-type: none"> ・単語 (キーワード) を説明する時、易しい日本語で説明した方がいい。 ・発表の時は書いたものを読まないで自然に話した方がいい。 ・発表を時間内に終わることについてもう少し厳しくした方がいい。 ・間違っただことばを指摘してもらいたい。
ディスカッション	<ul style="list-style-type: none"> ・問題提起と意見交換の時間をもう少し長くすること。 ・問題提起の時、クラスメートにもっと積極的に参加してほしい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・今のままで良い。特になし。(10名が同コメント) ・色々なテーマが面白くてとても好きだった。 ・国々でのニュースの役割 (あり方) について話し合うべきだ。

5-2-5 自由記述

自由記述による質問は2問あり、その内容は19)～20)の通りである。

19) ニュース発表のクラスに参加して、よかったと思うことは何ですか。

20) ニュース発表のクラスを良くするための改善点や提案を書いてください。

表4は、回答者による自由記述をまとめて示したものである。

19)の「ニュース発表のクラスに参加して、よかったと思うこと」についての回答を見ると「自分でそれぞれ興味のあるニュースを選べる」「色々なニュースサイトがあることを知った」「日本語のニュースがわかるようになった」といった「自律性」の高まりに繋がると思われるコメントが散見された。また「皆の意見を聞いて視野が広がった」「ものの見方は色々ある」「クラスメートの意見を聞いて考え方が変わった」「国際性が高まった」など「国際性」の高まりに繋がると思われるコメントも見られた。

20)の「改善点や提案」についてのコメントを見ると、一部の日本語レベルが比較的低い学生から「単語リストを事前に配布した方がいい」「易しい日本語で説明した方がいい」などの意見があった。発表準備・発表当日のプロセスについては、活動に参加する学生のレベルに合わせて調整していくことが今後の課題である。

6. おわりに

本稿では、琉球大学で学ぶ外国人留学生対象の日本語教育の現場において琉球大学が制定したURGCCの学習教育目標達成を目指して試みた「ニュース発表」という教室活動の実践とその効果について考察してきた。その結果、「ニュース発表」という活動はURGCCが掲げる7つの「自律性」、「社会性」、「地域・国際性」、「コミュニケーション・スキル」、「情報リテラシー」、「問題解決力」、「専門性」の中では、特に「自律性」「国際性」「コミュニケーション・スキル」を高める可能性があり、学習者にその効果を意識化させることができていた。また「情報リテラシー」と「専門性」についても活動に参加する前に比べ、伸びていることが窺えた。「社会性」と「問題解決力」については学習者に効果を意識化させるようプロセスの改善が必要であることがわかった。

7. 謝辞

平成24年度、平成25年度に続き、平成27年度にもプロフェッサー・オブ・ザ・イヤーを受賞させていただいたことは、身にあまる名誉なことである。このような機会を与えていただいたことに心より感謝しつつ、今後も実践研究を続け、研究結果を元に教材開発、効果的な授業構築に取り組む所存である。

注

- 1 『URGCC 琉球大学学士教育プログラム（平成 29 年度）』
http://w3.u-ryukyu.ac.jp/daikyo-c/urgcc/urgcc_office/reports.html
- 2 参考資料（1）参照のこと。
- 3 参考資料（2）参照のこと。
- 4 『日本語教育重要用語 1000』 バベル・プレス

参考文献

- (1) 梅田康子（2005）「学習者の自律性を重視した日本語教育コースにおける教師の役割-学部留学生に対する自律学習コース展開の可能性を探る」『言語と文化』12 愛知大学語学教育研究室, pp.50-72
- (2) 金庭久美子・川村よし子（1999）「TV ニュース構成の特徴分析とそれを支える表現」『日本語教育』101 号, 日本語教育学会, pp.1-10
- (3) 金庭久美子（2004）「リソースの活用を目指した授業-ニュース教材を利用した聴解授業」『日本語教育』121 号, 日本語教育学会, pp.86-95
- (4) 金庭久美子（2011）「日本語教育における聴解指導に関する研究-ニュース聴解の指導のための言語知識と認知能力-」『日本アジア研究』第 8 号, 埼玉大学大学院文化科学研究科, pp.1-31
- (5) 澁谷きみ子（2010）「問題提起型パネル・ディスカッションの取り組み-日本事情教育を通して」『立命館高等教育研究』（10）立命館教育開発推進機構, pp.187-202
- (6) 澁谷きみ子（2012）「日本事情教育における発題型ラウンド・テーブル型ディスカッションの試み」『立命館高等教育研究』（10）立命館教育開発推進機構, pp.161-175
- (7) 高橋亜紀子（2007）「ニュースサイトを利用した聴解授業の実践とその評価：教室の外での自律的な学習につなげるために」日本語教育方法研究会誌 14（2）日本語教育方法研究会, pp. 34-35
- (8) 田中望・斎藤里美（1993）『日本語教育の理論と実際-学習支援システムの開発』大修館書店
- (9) 徳井厚子（1997）「異文化理解教育としての日本事情の可能性-多文化クラスにおける『ディベカッション』（相互交流型討論）の試み」『日本語教育』（92）, 日本語教育学会, pp.200-211
- (10) 徳井厚子（1999）「多文化クラスと創造性-学生による討論形態の模索から-」『信州大学教育システム研究開発センター紀要 第 5 号』信州大学教育システム研究開発センター, pp.45-51
- (11) 中込明子「授業研究 聴解クラスにおける『ニュースの紹介』について」『講座 日本語教育 36』早稲田大学日本語研究教育センター, pp.162-181
- (12) ハウエル・久米昭元（1992）『感性のコミュニケーション-対人融和のダイナミズムを探る』大修館書店
- (13) 橋本智（2013）「日本語教育における「ファシリテータ」の役割」『徳島大学国際センター紀要・年報』徳島大学, pp. 17-21
- (14) 藤田真文（2004）「第 6 章 ニュースの文法と文体-その構造と特異性」『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』世界思想社, pp.92
- (15) ARC Academy（2004）「日本語教師のページ」
<http://www.nihongokyoshi.co.jp/manbow/manbow.php?id=534&TAB=>

参考資料 (1) 「ニュースシート」

最近私が気になるニュース

発表者： _____

発表日：()年()月()日()曜日

メディア	新聞() テレビ() インターネット()
分野	経済・政治・教育・社会・文化・科学・医療・歴史・事件/事故・その他()
報道された日	()月()日()曜日
トピック	
背景知識(キーワード)	

1. ニュースの内容

いつ	
どこで	
だれが(何が)	
どうした	
どのように	
なぜ	

2. 問題提起もんだいていき(疑問点・討論ポイント)

#	質問	私の意見
1		
2		
3		

参考資料 (2) 「発表のしかた」

「最近私が気になるニュース」を発表しよう

発表準備

1. インターネットなどから発表したいニュースを選ぶ。
2. ニュースの概要を「最近私が気になるニュース」シートに書き込む。
※クラスメートと一緒に考えたい問題点を3つ挙げること。
3. 書き込んだものをメールに添付して送信する。
4. 発表前に必ず1度は担当教員と相談する。(研究室に来ること)
5. ニュースデータをUSBメモリ等で持参すること。

発表当日

1. ニュースの内容が書かれたシートを配る。
2. ニュースを見せて、ニュースについて説明する。(発表時間10分程度)

発表のしかた

みなさん、こんにちは。 です。これから、私が選んだ、最近気になるニュースについて発表させていただきます。私が選んだトピックは です。このニュースのキーワードは、 です。 というのは ということです。

このニュースは というニュースです。では、ニュースをご覧ください。

(ニュースを見せる)

では、ニュースの内容を確認します。(いつ、どこで、だれが…などを確認する)
ニュースについてなにかご質問がおりでしょうか。

ないようでしたら、このニュースについて私から、3点、問題提起をさせていただきます。

1. ~
2. ~
3. ~

(それぞれについて意見を求める)

この問題についてどう思いますか。意見を聞かせてください。